令和8年 熊本地震における支援活動



令和８年７月 28 日 16 時 27 分頃、熊本県で地震が発生しました。

DMAT 隊

熊本県からの派遣要請を受け、厚生労働省 DMAT 事務局から要請が出され、当岩国医療センターの DMAT 隊が第１陣として７月 30 日午前、出発しました。

当院出発時には、田中屋院長の励ましの言葉とエールが送られました。
派遣先は熊本県南活動拠点本部（熊本労災病院）です。

メンバー：宮内 崇（救急科医長）、吉村一徳（看護師）、荒神一博（薬剤師）、浦浪美華（看護師）の４名



本部ミーティングの様子



当院出発



病院支援の様子…支援の調整、不足物資の確認や情報整理など



避難所訪問…避難者の健康チェックや状況の把握など



水を運んでいる様子



県南圏域活動拠点本部



避難所にて…脈拍・血圧測定、問診、服薬、感染予防など

医療班



第２陣 当院医療班は、８月 18 日から 22 日まで医療支援活動を行ってきました。

われわれ５名は国立病院機構の医療班として派遣されました。８月 18 日に熊本入りし、翌 19 日から３日間、県南圏域活動拠点本部指示のもと、八代市内の避難所の巡回に従事しました。発災から３週間経過していたこともあって、どの避難所も秩序立って運営されていました。それぞれの専門性を活かせるような場面には遭遇しませんでしたが、与えられた任務を全うすることで僅かながらお役に立てたのではと考えています。

22 日の帰途、車内は『医療班が活躍できない現状こそ、被災地が落ち着きつつあるよい兆し』との意見で一致しました。被災者の方々が１日でも早く地震前の生活を取り戻せるよう、心よりお祈り申し上げます。また、関連部署の職員の皆様、派遣をご支援いただきありがとうございました。

記：荒田 尚



21日 活動最終日に



当院出発

メンバー：
荒田 尚（医師）
藤井 幸恵（看護師）
松永 大輝（看護師）
柴崎 殊子（薬剤師）
岡野 なつき（事務）の５名

今月の表紙は DMAT 隊・医療班の出発時の様子です。